



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第39期生の皆さん、口腔生命福祉学科第2期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業までの道のりは決して平坦ではなく、苦しいこと、悲しい日、いろいろとあったでしょうが、それらすべてを乗り越えて、卒業の日を迎えるに至る努力を続けてきたことに敬意を表すとともに、心よりお喜び申し上げます。

皆さんは、この春からは歯科臨床研修医、歯科衛生士、行政職、大学院生など、さまざまな道に進みます。進む道は各人で異なるものの、歯科医学、歯科医療、口腔保健、社会福祉に携わり国民の健康の維持・増進に寄与するという諸君たちの目標は同一であると思います。

NHK総合テレビの「プロフェッショナル 仕事の流儀」という番組を見たことがありますでしょうか？ ホームページから番組概要を引用してみますと、“さまざまな分野の第一線で活躍中の一流のプロの「仕事」を徹底的に掘り下げる新しいドキュメンタリー”です。スポットがあてられている方々は“誰もが認める、その道のプロ。斬新な試みに挑戦し、新しい時代を切り開こうと格闘中の挑戦者であり、数々の修羅場をくぐり、自分の仕事と生き方に確固とした「流儀」を持っている仕事人たち”です。プロフェッショナルというと、得てして、我々のような歯科医療・口腔保健従事者など一部の人たちのことを頭に思い浮かべるかもしれませんが、今世紀に入り、どのような仕事でもプロフェッショナルイズム、つまりプロ意識が必須になってきています。そのため、大学教育でもプロフェッショナルイズムという概念が話題にのぼるようになってきました。一般的な概念からすると、プロフェッショナルは「特殊な技能、能力をもつ専門職」とみなされてきていますが、

これまでプロフェッショナルは他の人より秀でていることを念頭に置きがちでした。しかしながら、このプロフェッショナルには、高い倫理感・実力、利他主義、自分の守備範囲の中で社会のためになる努力をするといった事柄に対して忠実であることが求められます。このような努力により社会から初めてプロフェッショナルと認められ、社会から期待されるとともに、自分たちが仕える相手、その職業、そして社会に対して責任を追うこととなります。そのため、プロフェッショナル、特に医療人には、常日頃の一層の精進が不可欠となります。

今日、卒業の日を迎え、皆さんは社会に羽ばたいていきますが、皆さん方が大学教育で学んだ知識・技能・態度はまだ必要最低限のもので、いわば諸君たちは、今また新たなスタートラインに立ったばかりです。社会は、プロフェッショナルである医療人に対して幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感をもっていることを求めています。これらは今までに受けた教育だけでは不十分で、生涯を通じた学習、研修によって社会的な地位が得られるものです。諸君たちは共通の目標に向かって、さらなる精進が必要です。そのためには自分をさらにスキルアップするための目標を設定して努力してください。このことは現在の競争社会で生き抜いていくために必要不可欠なことです。

歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロフェッショナルとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。皆さんの活躍を大いに期待しています。